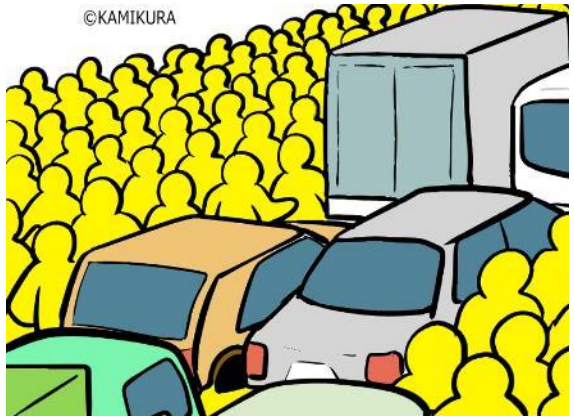
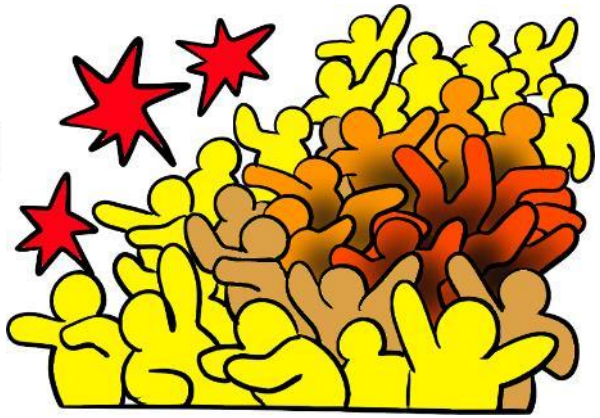
自衛消防組織による建物被害対応について





ＦＭ防災Lab：上倉秀之

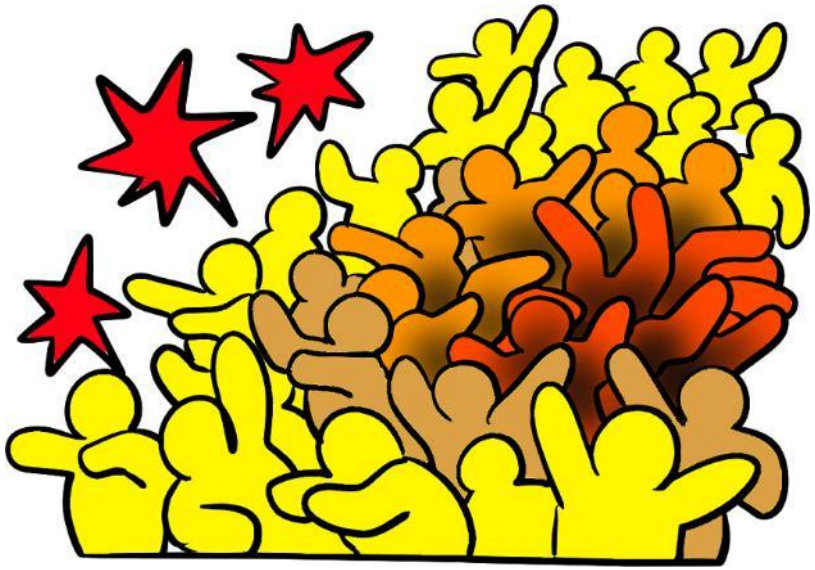
この街新宿

新宿地区には小規模のビルから超高層ビルまで様々な施設があり、多数の人が働き楽しむ街です。

一度地震が発生した場合、新宿地区の建物は大きな揺れに見舞われます。
建物は軋み、ひび割れや天井・壁の落下、ガラス窓の破損など様々な被害を受けます。

避難する場所は・・・

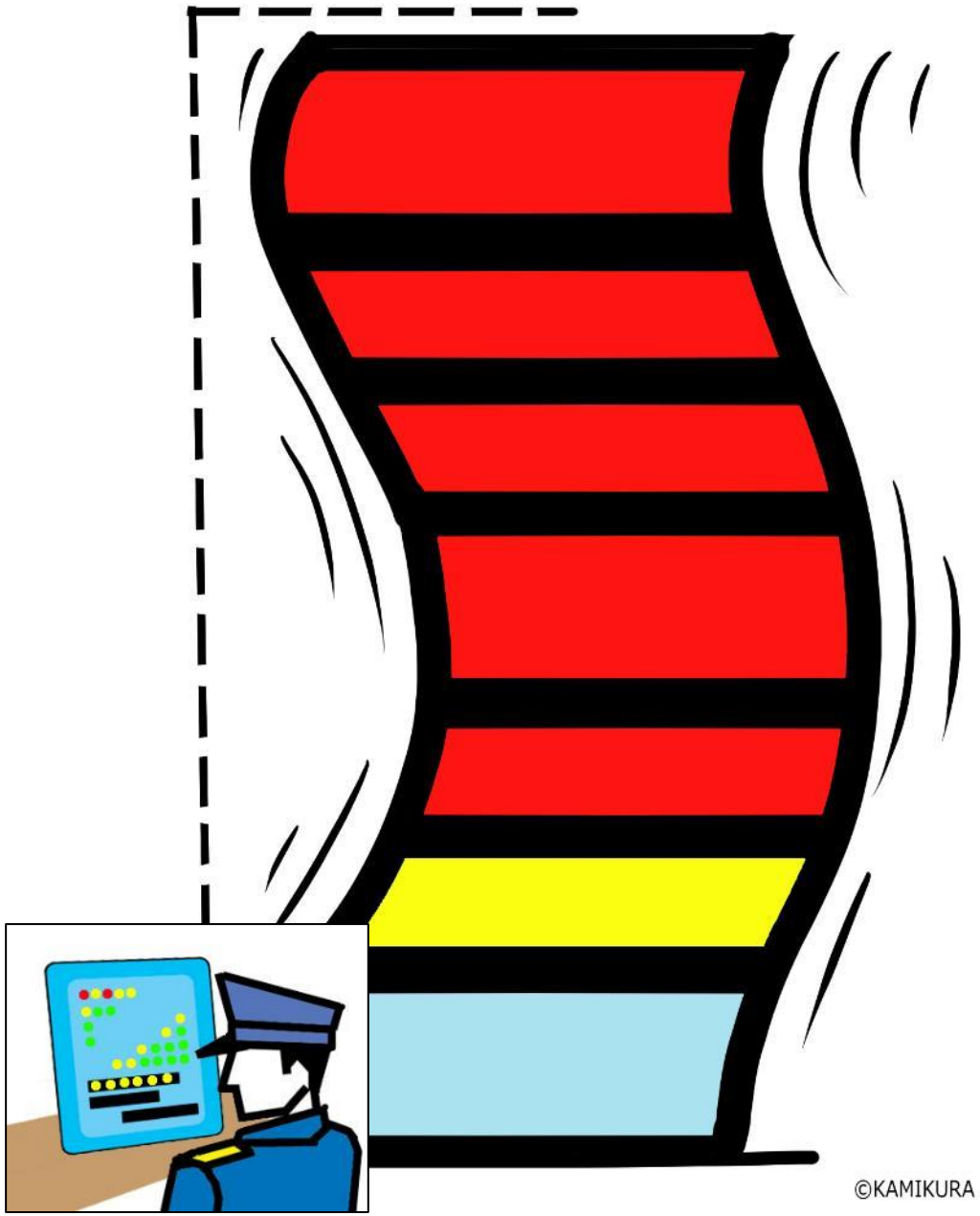
大きな揺れに見舞われ、不安に駆られた人々が建物から外に出ようとしても、建物の周りに十分なスペースはありません。



避難時に転倒したり、避難者が密集して群衆雪崩に巻き込まれる懸念もあります。建物内に留まる必要がありますが、建築専門家の点検は間に合いません。

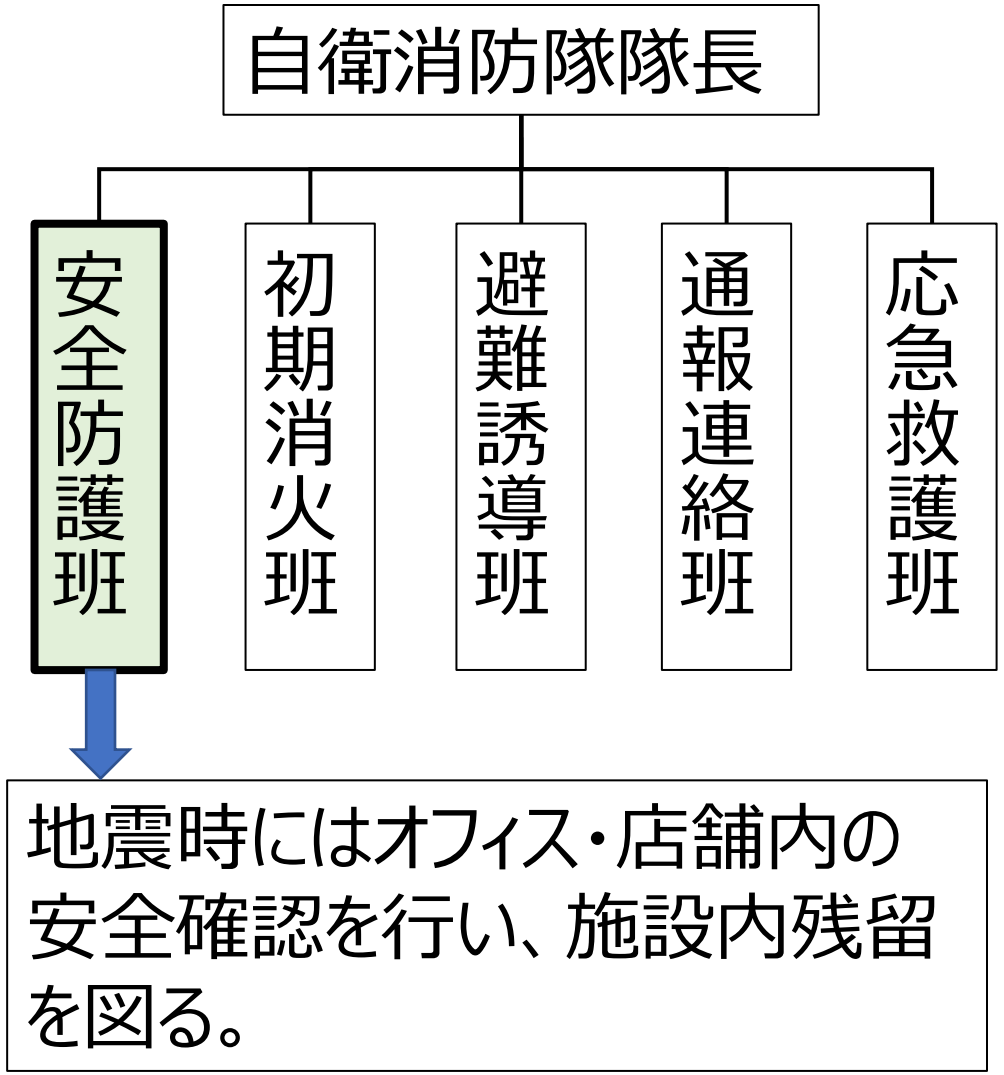
モニタリングシステム

超高層施設では、建物の揺れを計測し、躯体のダメージを判定するシステムが普及してきました。このようなシステムがあれば、防災センターで建物の被害状況を把握し、建物内に緊急時の放送を通じて建物内残留を呼び掛けることができます。



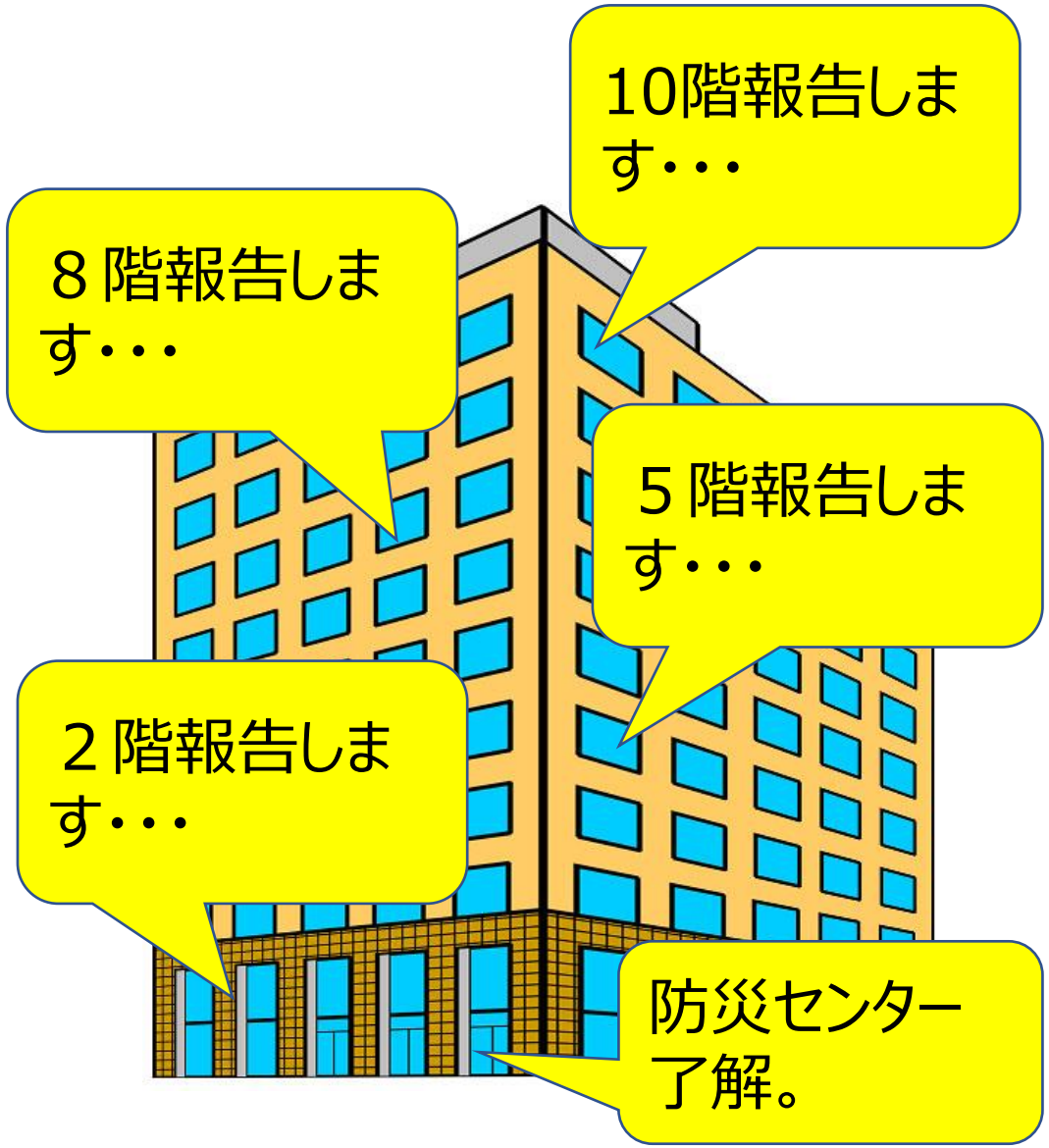
自衛消防隊

自衛消防隊を編成する場合、「初期消火」「避難誘導」「通報連絡「応急救護」の4班と「安全防護班」があります。
「安全防護班」の役割は「排煙口・防火戸・防火シャッターの操作」ですが、火災が発生してない状況では、「安全確認」を加えては如何でしょう。



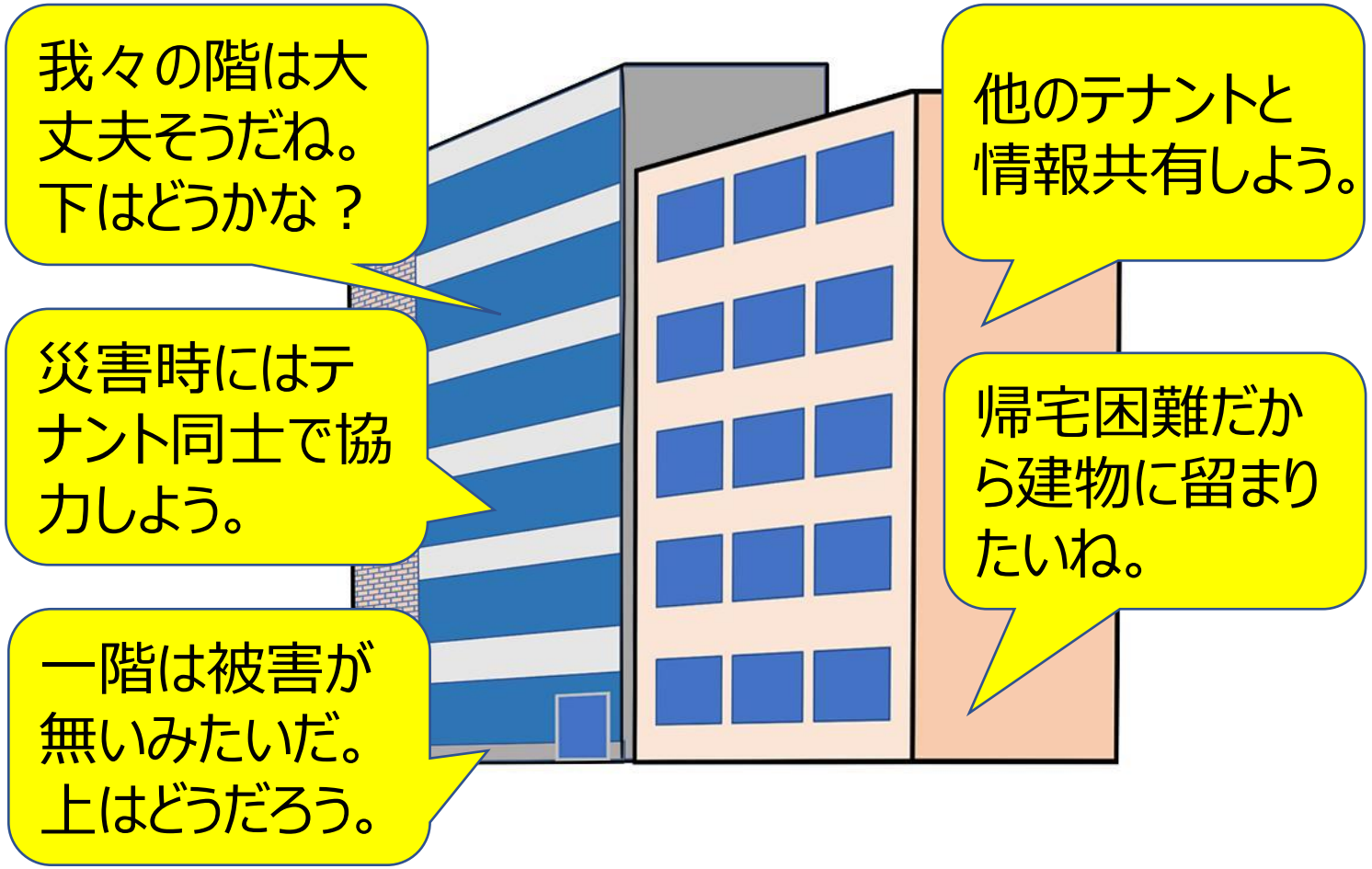
本部隊と地区隊の連携

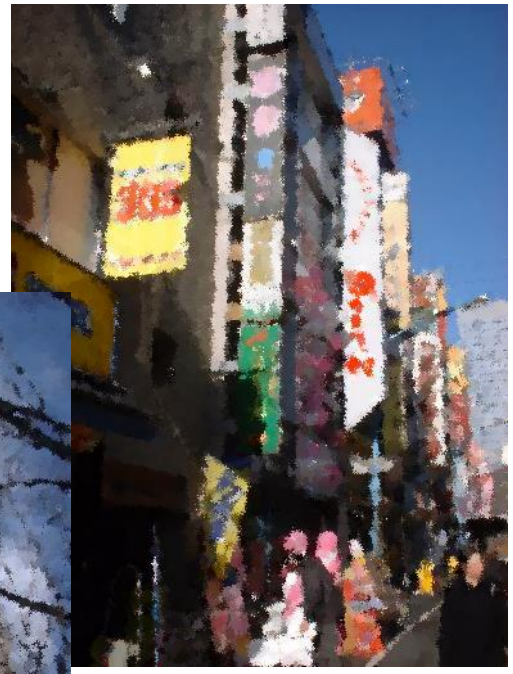
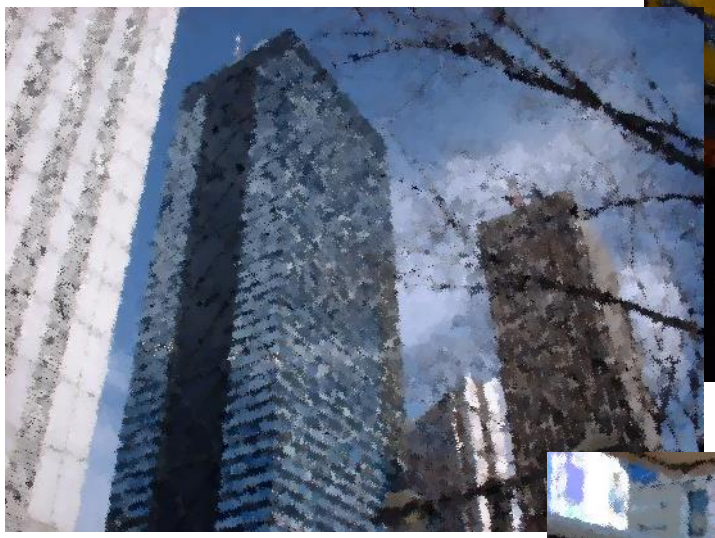
モニリングシステムが導入されていない施設で、防災センターの要員だけで建物内の点検を行うには時間がかかります。
自衛消防隊の本部隊と地区隊が連携して建物の被害を確認し、情報を本部隊に集約することで建物内残留の判断の情報を収集する取り組みが肝要です。



小規模ビルでも

小規模なビルでは管理会社もオーナーもすぐには駆け付けられません。テナント同士で建物の被害を確認し情報共有して建物に留まる取り組みが肝要です。



Withコロナ・取り組みは我が事

新型コロナウイルスの蔓延により
リモートワークが浸透してきました。
それでも新宿区で働く人は多く、
災害時にはたくさんの帰宅困難者
が発生します。
建物内に残る事で雨露・寒さから
逃れることができます。一人でも多
く助かるための取り組みは、新宿で
活動する人の「我が事」なのです。